

二中コミュニティ・スクールだより

～市川市立第二中学校学校運営協議会～

「夢・命・絆」

令和3年度第3号

(通算第9号)

会長 小林 俊之

(文責 野手 裕之)

「令和3年度第3回学校運営協議会」報告

12月11日(金)午後3:30から、第3回学校運営協議会が、第二中学校の大会議室において、委員10名の出席のもとで開催されました。

まず、小林会長より、次のようなあいさつがありました。

「今年度第3回の開催することができてうれしく思っております。先日はオープンスクールを拝見させていただきました。コロナが落ち着いてきたところですが、

現在、変異株の影響で予断を許さない状況です。委員各位においては各活動に活躍していただければと思います。忌憚のないご意見をお願いします。」

次第

1. 協議

(1) 教職員の任用について

2. 報告及び意見交換

(1) 第一中学校ブロックの通学区域について

(2) オープンスクールを振り返って

3. その他

1. 協議について

(1) 教職員の任用について

令和4年度の教職員の任用について協議を行いました。

- ・生徒一人一人の個性を大切にしてくれる教職員
- ・授業の改善に積極的な教職員
- ・自己肯定感を高めてくれる指導力がある教職員
- ・学校運営に熱意のある教職員
- ・個々の発達や課題に対応できるような教職員
- ・地域との連携を進める意欲のある教職員

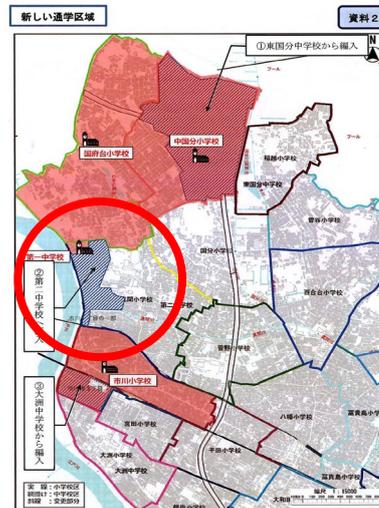
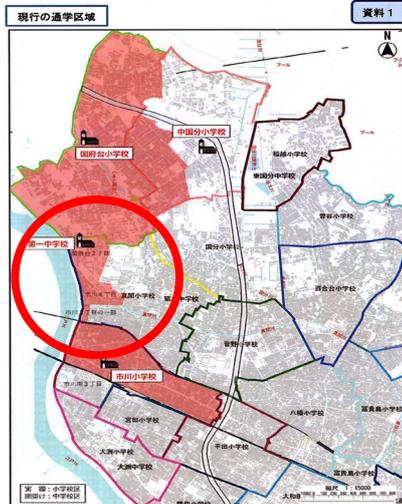
2. 報告及び意見交換

(1) 第一中ブロックの通学区域について

義務教育課から、市川市内の校舎を順次建て替えていく計画であること、令和10年度完成予定の第一中学校の建て替えに伴い、通学区域の見直しを進めていること、現在、影響のある学校の学校運営協議会で第一中学校ブロックの通学区域について説明をしていること、といった説明がありました。

新しい通学区域については、これから審議などを行い、事前にホームページなどでも公開する予定とのことでした。

学校運営協議会 資料
*第一中学校ブロック(第一中学校、市川小学校、国府台小学校、中国分小学校)の通学区域について



(2) オープンスクールを振り返って

11月20日(土)のオープンスクールに、学校運営協議会の委員が授業参観し、給食を頂戴しました。

◎各委員からの意見

- ・タブレットの活用が進んでいるように感じた。
- ・(視聴した)白百合学級の演劇動画を拝見して深く感動しました。
- ・授業風景を拝見することができてよかった。
- ・子どもの様子を見るのができてうれしかった。
- ・動物と触れ合う機会があつていい試みであったと感じています。
- ・明るい授業風景にうれしく感じました。



「第二中ブロック地域学校協働本部」の活動報告

11月27日(土)と12月18日(土)に、「第二中ブロック地域学校協働本部」(地域学校協働活動推進員会議)を開催しました。以前、第二中ブロック健全育成連絡協議会で作成していた「こどもマップ」(かけこみ110番掲示店や危険個所を掲示した二中ブロックとその近隣地域の地図)をリニューアルする予定で、準備を進めています。



各校地域学校協働活動推進員

ブロックリーダー	山口 好子
第二中学校	江戸 正人
	野手 裕之
真間小学校	奥村 朋子
	釘抜 克典
菅野小学校	味岡 厚
	横川 順子
須和田の丘支援学校	望月 法子
	和田 倫子



「かけこみ110番」は、市川市PTA連絡協議会の事業で、市内の各校単位PTAを通じて、ご家庭や店舗などに配布しております。

子どもたちのために、みんなでかかわることの大切さ

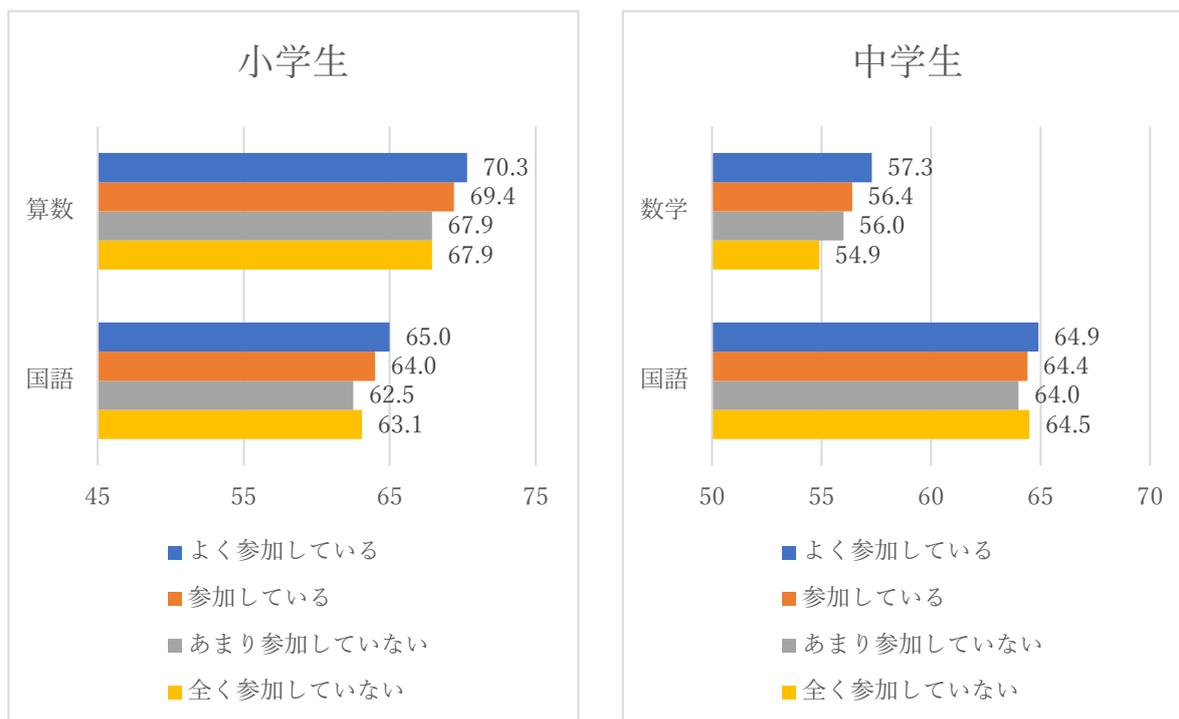
国立教育政策研究所は、2021年8月31日に「令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について」を公表しました。

(<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>)



①保護者や地域の人との学校関与と子どもたちの学力

その中で、「保護者や地域の人々が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか」という学校質問があり、その回答と平均正答率のクロス集計結果は以下の通りでした。



これまでの調査においても同じような結果（傾向）となっておりますが、保護者や地域の人々が学校や子どもたちにかかわっている方が、学力が高い傾向にあると考えられます。

②協働への学校の意識と子どもたちの学力

また、「保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか」という学校質問があり、その回答と平均正答率のクロス集計結果は以下の通りでした。

		小学校		中学校	
		国語	算数	国語	数学
1	そう思う	65.1	70.3	64.9	57.2
2	どちらかといえば、そう思う	64.2	69.5	64.3	56.4
3	どちらかといえば、そう思わない	63.0	68.6	64.2	56.1
4	そう思わない	61.0	66.6	63.0	54.6
5	取組を行っていない	63.1	68.8	64.1	55.6

保護者や地域の人との協働が学校教育に効果があるという意識がある学校の方が、子どもたちの学力が高い傾向にあると考えられます。

③保護者や地域の人の子どもたちへのかわりの大切さ

さて、中央教育審議会の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月）では、「学校そのものが、子供たちや教職員、保護者、地域の人々などから構成される一つの社会でもあり、子供たちは、こうした学校も含めた社会の中で、生まれ育った環境に関わらず、また、障害の有無に関わらず、様々な人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできることなどの実感を持つことができ」、「そうした実感は、子供たちにとって、自分の活動が身近な地域や社会生活に影響を与えるという認識につながり、これを積み重ねていくことにより、主体的に学びに向かい、学んだことを人生や社会づくりに生かしていこうという意識や積極性につながっていく。」と指摘し、「こうした学校での学びの質を高め、豊かなものとしていくことにより、子供たちは、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解したり、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けたり、生涯にわたって能動的に学び続けたりすることができるようになる。」と指摘しています。

子どもたちに多くの大人がかかわることで、子どもたちの主体的で深い学習に効果があると期待されるとともに、これからの時代に必要な「生きる力」を身に付けることが期待されているといえます。

そして、市川版コミュニティー・スクールは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくための制度である学校運営協議会と多くの幅広い層の地域住民や団体などが参画して緩やかなネットワークを形成することによって地域学校協働活動を推進する体制である地域学校協働本部とで、子どもたちに多くの大人がかかわるための仕組みです。この仕組みをますます充実させて、子どもたちにたくさんのお機会を提供したいと思います。

【参考】

松岡亮二氏は、欧米における保護者の学校活動関与の効果についての研究を概観する中で、「保護者の学校社会関係資本（学校活動関与）は、主にPTA会議、保護者と教師の面談、学校や学級ボランティア、それに学校行事などへの出席・参加で指標化（Freeman & Condrón 2011、Lee & Bowen 2006）されてきた。研究によって項目別であったり合成変数であったりと扱っている内容、児童・生徒の学年、分析手法などは異なるが、学校関与は、学力・学業達成（Bodovski & Farkas 2008、Freeman & Condrón 2011、Lee & Bowen 2006、Potter & Roksa 2013、Powell et al. 2010）、大学進学（Sandefur、Meier、& Campbell 2006）、退学抑制（Barnard 2004、Carbonaro 1998）、問題行動抑制（Domina 2005、Powell et al. 2010、Mc-Neal 1999）、学校環境への従事（engagement）や社会情緒的適応（Izzo et al. 1999）、社会的技術（Powell et al. 2010）などに繋がっているとされる。一方、個人水準では成績とは関係がないとする研究（Domina 2005、Pong 1998）もある。また、学校水準における保護者の学校活動関与の活発さと学校の成績の関連（Pong 1998）も指摘されている。」（松岡亮二稿「父母の学校活動関与と小学校児童の学校適応—横断データによる社会関係資本研究」『教育社会学研究』、第96集、2015年。）と示しています。